

2007年度 代表事業③

事業名 『Voice of しずおか 市民討議会』

委員会 まちづくり政策委員会
委員長：西尾 浩二

副委員長：小笠原 幹人
副委員長：小林 和樹
幹事：亀山 哲平



まちづくり政策委員会では、NPOや一般市民と共に、ドイツをはじめヨーロッパなどで開催されている「ブラーヌクスツェレ」を日本版、静岡版として受け入れやすいようにアレンジし『Voice of しずおか 市民討議会』として開催いたします。今までまちづくりの活動の場へ参加する機会がなかった市民に、こちらから参加を募り、活動の場を提供することで、参加のためのきっかけづくりを行い、身近なテーマについて討議してもらうことで自分たちの住んでいる静岡（まち）に関心をもってもらうようにします。事業を通して、我がまちをよくしていくという意識の啓発につなげていくことで、自分たちの力で我がまちを創っていくという市民の意識の変革のための手助けをおこないます。我々はこの事業を静岡市において開催し、紹介すると共に、手法やプロセス、課題の抽出を行い、広く社会に向け発信することで、市民討議会という新たな市民参画のシステムの種をこの静岡市において蒔いていきます。それが今後成長して、根付いていくことで、市民主導型の社会という大きな幹になり、枝わかれしていくことで、市民が政治、まちづくりに参画する機会が増え、地域が活性化し、我々が掲げる「明るい豊かな社会」の実現へとつながっていくと確信いたします。

事業趣旨要約

背景

効果

例会の流れ・目的

達成検証

所見

昨今、地方分権一括法の施行や合併特例法の大幅な改正などにより、中央集権型の行政を改め、地方分権型の社会へと変化しようとしています。合併を済ませ、政令指定都市となった静岡市も4月に「静岡市市民参画の推進に関する条例」が施行され、これからますます、市民自治によるまちづくりに変わってきます。しかし様々な会議に参加しているのは、一般公募により集まった人であり、意見を述べているのは、専門家や、強い興味をもった、限られた人が多いのが実情です。我々が暮らす静岡市が「誇りある静岡（まち）」になるためには、こうした活動に参加する機会がなかった市民にも参加してもらい、意見を聴いていくべきではないでしょうか。そのためには今までの一般公募の手法と並ぶ、新しい形の市民参画システムの模索が必要だと考えます。

- ・ 今までの公募型会議のように、もともとまちづくりに対し、意識の高い市民ではなく、静岡市民に対し幅広く、こちらから討議会へ参加をお願いすることで、テーマについての知識向上、地域活動への行動の意識づけにつながる。
- ・ あらかじめテーマについて情報提供をすることで、参加するのが初めてでもテーマについて真剣に考え討議ができる。

2007年5月18日(木)『Voice of しずおか 市民討議会』実行委員会設立
・ 市民のまちづくりへの参画意識を高めると共に、まちづくりのための新たなシステム構築を目指し実行委員会を立ち上げた。実行委員会メンバーは、静岡JC、NPO等関係諸団体、一般市民の構成となった。
事業：【Voice of しずおか 市民討議会～まちづくりに、そろそろ出掛けてみませんか!～】主催(社)静岡青年会議所
主幹：【Voice of しずおか 市民討議会】実行委員会 後援：静岡市環境局廃棄物対策部
討議参加対象：静岡市民

開催日時場所：
1日目 2007年10月7日(日)13時～17時 静岡市沼上清掃工場内 会議室
2日目 2007年10月8日(月)10時～17時 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ 10F 1001-1会議室
メインテーマ：どうなる地球?どうなるゴミ?これってゴミ?～未来の子供たちのために考えよう!～ 我々に身近な「ゴミ」問題をメインテーマとし議論した。現在、日本では1人が1日に1キロもの「ゴミ」を出していると言われてます。日本人全体の「ゴミ排出量」を合わせると1年間でおよそ5000トンにも及びます。あまりにも多く出されるゴミに対し、最終処分場もいずれ不足すると言われてます。安易にゴミを捨てる「一方向行型社会」から抜け出し、ゴミの発生を抑制し、リサイクルを進める「循環型社会」に変える必要があります。そのために、まず、自分たちの暮らしているこの静岡市で市民1人ひとりが意識を変えて積極的に行動していくことが必要となります。
1日目：静岡市沼上清掃工場にて見学会を開催 初日の話し合いで、ゴミの現状把握を含め、問題意識の把握を行いました。私たちが排出しているゴミの行先を見学し、処理の現場を直にみて体感してもらい、その後の話し合いをより現実的に展開させることを目的としました。
2日目：グランシップにて『voice of しずおか 市民討議会』開催 前日の静岡市沼上清掃工場見学会を経て、参加した市民メンバーが今後の「ゴミ問題」に関して活発な討議が展開されました。参加された市民メンバーからは「静岡市のゴミ問題を把握することが出来た」、「ゴミの分別に重要性について理解出来た」、「静岡の未来の為に何が出来るのかを改めて考えることが出来た」等の言葉を頂くことが出来ました。
例会：【10月度第二例会～まちづくり政策例会】
日時：2007年10月23日(火)
第一部：ベストセラーになった「世界がもし100人の村だったら」の池田香代子氏の講演を開催した。世界の現状や、私たちに今出来る事を語って頂いた。

- ・ 市民討議会という新たな市民参画手法を実施し検証することで、行政、そして市民の中で、認知度が上がり市民参画における一つの提案となった
- ・ 行政と市民の中で、まちづくりにおける新たなネットワークを作ることができた。
- ・ 静岡市民に対し、地域活動への参加のきっかけづくりとなり、意識変革の手助けが出来た。
- ・ 実行委員会を通し、まちづくりにおけるネットワークを構築することが出来た。

まちづくりへの市民参画手法にこだわり、実行委員会にて検討を重ね、市民討議会へ静岡市民の皆さんに参加してもらいました。参加する方々は、討議テーマであった「ごみ問題」に興味がある、もしくは、「ごみ問題」だったら参加してみたいと思った方が多かったと見受けられます。しかし、討議後のインタビューの中で、ほとんどの方がこういった活動へ参加するのが初めてだったといえます。そして、「勉強になりました。」「楽しく話し合うことができました。」「次回また開催されたらまた参加したい」との前向きな声をいただくことが出来、本事業が成功だったと確信しました。
まちづくりというのは、人づくりだと良く言われます。我々が、本気でまちづくりを考えるなら、市民の中で、少ずつでも、このまちの事を真剣に考えて行こうという気概を持つ人材を増やすことも重要なことではないでしょうか?市民討議会のような事業は市民だけで行うのは、難しいと考えます。行政も限られた予算の中で、行わなければならないという実態もあります。今後、行政も含め、各種団体との協働の中で、市民を巻き込み継続していくことが、今後の最重要課題だと考えます。市民の皆さんは、市民参画の活動を知らない人が多いこと、そして、まだまだ、まちづくりへの活動の場が少ないと思います。

目的
・ 静岡市民が地域活動へ積極的に参加する為のきっかけづくり。・ 自分達の生まれ暮らしている静岡（まち）に関心をもってもらい、討議会を通して地域活動に対する意識変革の手助けを行う。
・ 新たな市民参加手法を実施・検証することで、新しいネットワークづくりと地域教育の礎を築く

目的

事業概要

日時場所：2007年5月～実行委員会を重ねた。
10月7日⇒静岡市沼上清掃工場
10月8日⇒グランシップにおいて『Voice of しずおか 市民討議会』を開催
参加人数：（結果、討議会参加者34名）
事業総額：1,399,399円



担当委員長Q&A

01 市民を巻き込むという壮大な事業ですが、一番苦労した事は何ですか？

行政・NPO・大学との連携が一番大変で、JCがそのまゝ役でした。この事業は、全国のJCでやっているという流れであり、日本では三鷹が一番最初におこなっていました。当時は、三鷹とのつながりもあり、実際に伺って参考にしていました。

02 当時の計画で参加者60名という目標数値は何か理由があったのでしょうか？

事業費を考慮し、とにかく沢山の人を集めようという流れとなりました。結果、25名ほどでしたが、人数が多ければいいのではなく、少人数でも濃い話し合いが大切だと感じていました。これは行政も同じ想いであつたと聞いています。現在も5名×5テーブルの人数でおこなっています。

03 JC内でも初めての試みという事で、時間的に厳しかったとありますがどの部分で時間が足りなかったのですか？

対外的な要素が多く、上程を繰り返し、まとめるのに時間がかりました。

04 討議テーマが「ゴミ問題」でしたが、他のテーマはありましたか？また、なぜ「ゴミ問題」になったのでしょうか？

防災関係、街コン等、他のテーマもありましたが、当時ゴミの分別問題があり、子供や高齢者に対してもイメージしやすいということから『ゴミ問題』としました。この事業をきっかけに、ゴミの分別・ゴミ袋（指定ゴミ袋）の有料化がスタートしました。現在は、行政がテーマを決めているようですね。

05 高齢者の参加が多く、若い人があまり参加しなかったとありますが、

原因として日時以外に何か理由があったのでしょうか？

やはり意識の低さだと思います。3000通出して、応募は20人位でした。現在は、住民基本台帳から無作為に抽出しており、当時よりも、一般市民の意識は上がっています。

06 一般市民の声と、専門家の意見の違いというのはどんな部分でしたか？

専門家は、自分たちの言いたい意見を持っているが、一般市民は意見そのものを持っていません。ごく一部（専門家）の発言だけで、物事が決まっていく事に疑問を感じていました。

07 「voice of しずおか」は現在も継続的に行われていますが、

西尾さんから見て当時と比較し現在どのように映っていますか？

10年、20年と継続していけば、もっともっと市民も参加し、良くなっていくと思います。また、継続の為に、後継者の育成も大切だと思います。現在は当時と比べ、流れもマニュアル化できている為、運営し易くなっています。最後に現役のバ-に対して一言。入会3年未満の人が多いのは、寂しいことです。もっと、時間を上手に使うJCの事業で繋がったパイプを大切に、継続してください。その経験が他の事業にもつながると思います。



取材全体としてのまとめ・感想

当時、委員会メンバーとして参加していましたが、改めて委員長の苦労話を聞き、事業の大きさを感じました。現在も継続し、静岡のまちづくりの一役を担っているvoice of しずおかは、静岡JCにとって大きな功績であると思いました。また、スタート当時と比べ流れやマニュアルが完成している為、さらに運営し易い環境が整っています。今後も、voice of しずおかを継続していくことで静岡がより良いまちになっていくと感じました。

取材前後の特に気付いた点

立上げ当初の苦労は委員会メンバーとして覚えていますが、現在まで継続している事が素晴らしい、これまでの経緯を知ること様々な苦労があったことを改めて認識する事が出来ました。また、静岡駅南口の喫煙所設置やごみ袋有料化が「voice of しずおか」から発信されたものだとしり感銘を受けました。